

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童デイサービス あっぷぷ		2025年3月31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動や子ども達の状況に応じて、部屋を分けている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	5	1	子ども達の利用人数によっては、大人の人数が多すぎないように配慮している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		子ども達自身で判断したり気づいたりできるよう視覚的なサポートをしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		限られた空間を子ども達の活動に合わせた導線にしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		毎日（午前と午後）、子ども達が降所した後には必ずその時間を作り、職員でミーティングをしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	3	3	毎日（午前と午後）、子ども達が降所した後には必ずその時間を作り、職員でミーティングをしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	3	第三者評価を外部に委託していないため。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		職員が受講したいと希望した研修を受講できる。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		子ども達の様子やどんな目的で取り組んでいるのか、ホームページ上の記事で配信されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		言語発達検査、遠城寺式、JSI-mini等の標準化されたツールを用いて分析し、支援計画に盛り込んでいる。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		毎日のミーティングで職員との共通理解の時間を設け、検討されている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画に沿えるように毎日ミーティングをしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		言語発達検査、JSI-mini等の標準化されたツールと日々の行動観察等のどちらも活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		総合的に子ども達の支援ができるように考え、その子どもにあった支援内容に設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		定期的に職員会議を行い、活動プログラムの月間予定を検討をしている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		月間予定を元に日々のミーティングの中でその日の利用児童に合わせて調整している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		子どもの状況に応じて、必要な場面や必要な状態の時は個別と集団の活動をうまく組み合わせ支援している。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日			
児童デイサービス あっぷっぷ		2025年3月31日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎日（午前と午後）、子ども達が登所してくる前に細かい打合せをし、その日に利用する子ども達の状況に合わせて活動内容を変えたり、担当を決めたりしている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		毎日（午前と午後）、子ども達が降所した後には必ずその時間を作り、職員でミーティングをしている。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		子ども達の降所後、記録を残す時間を作り、翌日以降の支援に繋げている。	
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		必要に応じて、児童発達支援管理責任者以外の職員も参加している。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	6		1つだけに特化した活動ではなく、生活していく上で必要な場面を想定し、複数の目的を持って支援をしている。	
	25 こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		役割分担や子ども同士で相談して決める機会を活動の中で設けている。	
関係機関や保護者との連携	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		必要に応じて、児童発達支援管理責任者以外の職員も参加している。	
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		事業所での様子を記載し、情報提供書の作成等を行っている。また、医療機関を受診する際には日々の子どもの様子をまとめ、保護者に提供している。	
	28 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		年間行事予定表など、学校から手紙が配布された際には情報共有をさせてもらいデータとして保存。また、子ども達の下校時刻は毎週出される時間割を保護者から提供してもらっている。	
	29 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		現在、この質問に該当するような利用児童はいないが、このような状況になった場合は情報共有をしたいと考えている。	
	30 学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6		情報提供書の作成、支援会議等での引き継ぎ等を実施している。	
	31 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		必要に応じて、子ども発達支援センターと情報共有をし連携を図っている。	
	32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	2	野外活動で事業所の近くにある公園に行き、地域の子どもと接する機会がある。	
	33 （自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1	小樽市の子ども支援部会に参加している。	
	34 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に直接伝えたり、話を聞いたりできる状況である。他にLINEや電話で利用時の様子を伝えたり、時には写真を添付して理解しやすいように工夫している。	
	35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6		就学相談説明会やちょこっとあっぷっぷ等で情報提供を行っている。	
	36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5	1	見学体験の際や利用契約時に必ず説明している。	
	37 放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		保護者としてどのように成長してもらいたいか、本人はどんな困りごとを持っているのかの確認をしている。	
	38 「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		理解し同意が得られるような工夫として検査結果や日々の課題、成長した面も合わせて説明している。	
	39 家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		LINEや電話、送迎時での対面で保護者の悩みや不安など、都度応じている。	

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
児童デイサービス あっぶっぶ		2025年3月31日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		ちょこっとあっぶっぶで保護者同士で交流する機会を設けている。また、利用児童の兄弟姉妹が活動に参加できる機会を設けている	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		相談ごとがあった場合は、優先して対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎週の活動内容や月間予定等をホームページで定期的に発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5	1	ホームページ等での写真掲載時は、顔や名前がわからないように配慮している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		言葉で意思疎通が難しい場合、その子どもが伝えられる手段（絵や写真などのカード）を準備し活用している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	近隣の商店やスーパーでの買い物、夏祭りやハロウィン行事等で交流する機会を設けている。また、同じアパートの住人に声をかけ、遊びに来られるようにしている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		定期的に、避難訓練、防災スタンプラリー、感染症対策（手洗いチェック）等を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		災害時に備え、想定した場面でのSOS発信ができるよう公衆電話を使う体験をしてもらっている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		見学体験や利用契約時に確認している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	2	医師の指示書が必要な利用児童がいないため、保護者から聞いて対応している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待防止の観点から、職員と子どもが一人ずつになる時間を最低限度にし、子ども達の様子がわかるようドアなども開放したままになっている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5	1	対象となる利用児童がいない。	